



○ 地域で子ども達

を見守る！

平成十年代、子ども達への犯罪が全国的に多く発生しました。心を痛められた方も多いことでしょう。こう

した犯罪を防止しようと、各地に子ども達を見守る組織がつくられました。笠松町でも**町民による見守り組織**

が誕生し、すでに六年と七年。松枝地区では現在も約七十名の方が「松枝ふれあいたい」として活動されています。その取り組みには、子ども達を地域で自ら守る心が感じられます。

○ ふれあう中で深まる



そうした心のおかげで、子ども達は毎日安心して登下校しています。それだけではありません。毎日のふれ合いは、地域の方とのかかわりを深め、「お

ボランティア 子どもを見守り 心を育む！

松枝ふれあいたい

はよう」「きょうなら」「とあいさつが自然にかわされます。時には、下校の道すがら学校での出来事をボランティアのおじさん、おばさんに話す子も。そこには、家に帰り着いたような安ど感が感じられます。子ども達と地域の方は、まさに**顔の見える関係**になっています。

○ 感謝の心

出合いのあいさつだけではありません。お世話いただくボランティアのおじさんやおばさん、停車する運転手さんに、「ありがとうございます。」と頭を下げ、感謝の気持ちを伝えます。毎日、登下校する中で自分たちを守っていただく心を自然に感じ取り、生活の中で感謝する心が培われています。

○ 地域の方と一

この見守り活動、学校のある日は天

候にかかわりなく、毎日行われます。朝の集団登校で一回、午後の学年下校で二〜三回。用事のある時は、交代しながら**地道にボランティア活動**が続けられています。町を担う子ども達を守ると共に**心を育む取り組み**。自分のできることを**地域のため**にという「ふれあいたい」の心は、まさに「**道徳のまちづくり**」につながります。



松枝地区（トミダヤ前の横断歩道）
下校時のサポーターと子ども達